

実施日： 令和7年10月7日(火)～10月9日(木)

視察参加議員：島岡 宏明 議員 鈴木 一彦 議員 田中 義法 議員
菅井 歩美 議員 下村 壽郎 議員

※視察報告書について、島岡議員・鈴木議員はそれぞれ個別に報告を提出
視察先・視察目的

10月7日 沖縄県嘉手納町

ジモティーを取り入れた不用品のリユース事業について

10月8日 沖縄県うるま市

① IT・産業振興について

② 伝統文化の継承(観光資源としてのエイサー)について

10月9日 沖縄県浦添市 商工会議所

浦添市の商工業に係る歴史、概要等について

■10月7日(火) 沖縄県嘉手納町

視察目的：ジモティーを取り入れた不用品のリユース事業について

対応者：嘉手納町議会副議長 新垣 貴人 様
議会事務局 係長 喜屋武 将太 様
上運天 大智 様
産業環境課 課長 我謝 治彦 様
同 環境衛生係 係長 島袋 靖 様
同 主事補 島袋 盛頌 様

●概要説明

1. 嘉手納町における廃棄物減量化の取組

- ・ごみ処理の原状分析と課題抽出

ジモティーを取り入れた不用品のリユース事業を活用した経緯について

読谷村と共同でごみ処理場を運営しているが「ごみ減量」「リサイクル」が課題となっていた。

可燃ごみの中の紙・布類が54%を占めていた。

- ・新たな取組の検討

令和2年度 古布・古着の改修の導入検討

粗大ごみ現状確認及び対策としてフリマアプリ「ジモティー」の活用検討

- ・新たな取組の実施

① 古紙回収の見直しと分別徹底 役場内に紙ごみ回収BOX設置

② 古布・古着回収の導入と実施

古布・古着の分別回収開始(令和3年4月～)

③粗大ごみリユース（ジモティー・おいくら活用）

ジモティーと協定締結（令和3年9月1日～）※株式会社ジモティー

「おいくら」との協定締結（令和5年11月）※マーケットエンタープライズ株式会社
自治会・公共施設連携強化

◆質疑応答

・島岡議員

Q. これまでの廃棄物の減量化への前向きな気持ちが「ジモティー」の活用や色々な知恵に結び付いた気がしますが。

A. 何としてもゴミを減らさなくてはという思いが役所の人々を動かしたのだと思います。

Q. 今後、どのような活動でゴミの減量に取り組みますか。

A. 「ジモティー」や「おいくら」など民間の力も借りて市民のみなさまにゴミの減量化を周知していきたいです。

・田中議員

Q. ジモティーを取り入れた不用品のリユースについて

ジモティーとコラボすることにした発端についてお伺いいたします。

A. 139の自治体とコラボしているそれにとってみた。

Q. ジモティーを取り入れたメリット・デメリットについてお伺いいたします。

A. メリット：ジモティーに払う手数料はまったくない

お年寄りや、シングルマザーには、喜んでもらった

デメリット：まだそこまでのデメリットは無し

Q. 年間何人の取引が行われているかお伺いいたします。

A. 99.9%の譲渡率

693件で429,210円の売上

5.5トンのゴミ削減

・菅井議員

Q. ジモティーを活用する際に、例えば特に人気が集まる物など、複数人が同じ物を欲しい状況で、その物の数よりもたくさんの方が集まってしまった際はどのように対応していますか？

A. 早いもの勝ちです。最初に問い合わせをして、欲しいと表明した人から連絡を取り、その人が最優先です。たとえその日にすぐ取りに来れますという人が後から現れたとしても、最初に連絡をしてきた人が優先です。

受け取りが1週間後になると言っても、最初の連絡を取り合った人の物になります。

Q. 様々なリユース商品があるとは思いますが、特に人気がある物は何かありますか？やはり、家電系が1番の人気なのでしょうか？

A. 1番人気の物があります。様々な物の中で特に人気がある物はカラーボックスです。普通よりも安く手に入れることができ、収納が出来るカラーボックスは使いやすく嬉しいと、大変喜ばれています。意外と家電系はそこまで1番人気というわけではありません。

・下村議員

Q. 資源ごみについて、持ち去り等に関する条例があるのでしょうか。

A. ごみの収集は基本的に、沖縄県は集積場所を指定していません。町の職員が直接戸別収集をしているのでそのような条例はありません。

Q. 資源ごみ回収をする団体等へ補助金はありますか。例えば紙などの回収量に対し1kgあたり〇円を支出する。

A. ありますが町へ事前登録が必要で、現在は大きな団体が登録し4～5団体です。また、回収量に対し1kgあたり10円を支出しています。

Q. ジモティーを活用して、町職員の経費削減がどの程度できましたか。

A. 経費削減については、調査していませんが以前と変化はないように思います。

◆感想

・田中議員

ゴミの減量化の取組について、根本的に市民の方々に、
ゴミと書いて金にしよう！

と呼びかけ、捨てるのではなく、売る！

処分ではなく、販売する！

と、認識してもらうことが大切だと感じました！

又、職員の方々の負担を減らす工夫と、品物の価値を見定める目利きも勉強してより価値のある物を見極める力を付ける事が大事ではないかと思いました。利益を得る事より、譲渡やリサイクルできれば市民の為にも良いのかと思います。

ジモティーシステム利用手数料は無料とのことなので、土浦市でも実験的にやってみても良いのかと思いました。

・菅井議員

ジモティーを利用することにより、市民は良いものを安く手に入れることができ、市とのやり取り等、身近に感じる事が出来るため、行政との関係も密に関われるように感じました。無駄がなく、必要な物が必要な人に行き渡るため、良い流れが出来ていると思います。もし、土浦で行うとした場合、商品を管理するための場所の確保等、大変なことも多々出てくると感じますが、良い取り組みだと思いました。

・ 下村議員

土浦市では指定場所集積後に回収しますが、沖縄県内の自治体の多くは嘉手納町も含めて町職員が直接戸別訪問して収集する。ごみ収集の形態に違いがありました。戸別に収集する方法であれば資源ごみの持ち去りは発生しないはずですが、粗大ごみの処分の経費がかさみ、新たな処分方法が検討されたのかなと感じました。

ジモティーを活用し、粗大ごみをリユースしてもらい処分量を減らす。同時に排出者が「売れる」ことでリユースの意識が高まる、時代の流れと町民のニーズに合致した事業なのかもしれません。このようなユニークなごみ減量作戦を発案した職員は町の宝物かもしれません。

また、ジモティー活用のみならずおいくらの活用やカンボジア輸出業者と契約し粗大ごみや食器・陶器類もリサイクル可能とのことで、ごみ減量につながる素晴らしい事業であると思います。まだ初期段階であるようですが今後の展開が期待で出来ます。このような事例は、全国の自治体に広まるであろうと推測されます、土浦市でもごみ減量が課題となっておりますので、提言してまいりたいと考えます。



↑ 嘉手納町 研修 町職員の説明



↑ 嘉手納町 研修



↑ 嘉手納町玄関前集合写真

■10月8日（水） 沖縄県うるま市

視察目的：① I T ・産業振興について

②伝統文化の継承（観光資源としてのエイサー）について

対応者：うるまし市議会事務局 議会総務課 係長 伊藤 靖 様

① I T ・産業振興について

うるま市経済産業部 産業政策課 課長 玉城 貴志 様

主幹 仲村渠 安一 様

●概要説明

① I T ・産業振興について

うるま市の経済振興について、動画で概要説明があり、その後スライドでの説明を受けました。スライド説明では沖縄県が開発した中城港湾新港地区の開発と企業誘致に向けた支援、さらにはうるま市独自事業の産業基盤整備事業計画についての展開と産業振興に関する事項でした。

中城港湾新港地区の開発と企業誘致については、沖縄振興特別措置法に基づき創設された経済特区に該当しており、他県にはない効率の所得控除（最大40%）や設備投資を促進する課税の特例（優遇措置）が受けられます。また、国・地方税の他、関税の優遇や、沖縄県による人材確保・育成に対する助成を受けることができます。

うるま市独自事業の産業基盤整備事業計画については、中城港湾新港地区に進出した企業から港に開発された低地の工業団地であり、自然災害を受けやすい、特に地震による津波被害や台風などでの高波の被害を避けるために、高台の工業団地を設置して欲しいとの要望を受け、市が開発を計画しているとの説明でありました。

◆質疑応答

・島岡議員

Q.うるま市がこれほど企業誘致に力を入れているとは思いませんでしたが、海外はどのくらいの国と交流があるのですか。

A.環太平洋の国とたくさん貿易をしています。土地がらで交通の便が良いからだと思います。

Q.若い人たちが戻ってきていますか。

A.うるま市から離れ、エイサー祭りの為にだいぶ戻って来てくれます。企業誘致によって仕事も安定しているからということもあると思います。

・田中議員

Q.企業誘致をするために、どのような支援策を講じているかお伺いいたします。

A.税制優遇処置がある

Q.どのような活動をして国内外に発信しているかお伺いいたします。

A.費用交通費、8割の補助

年3ヵ所で、約1000万円の補助をだしている

・菅井議員

Q. ITや産業振興について子どもたちにも興味関心が持てるような取り組みは行っていますか？

A. 子どもたちがITへの興味関心をより高めることが出来るよう過去にプログラミングコンテストを実施し、作品を競い合う機会を設けました。また、コンテスト前には初心者向けに都内のITプログラマーによる特別講座を実施したり手厚いサポートを行いました。

・下村議員

Q. 中城港湾新港地区の開発と企業誘致により立地企業が271社で令和6年度までに単純雇用の総数が単純に7,373人の増となったようですが、うるま市の人口増加に繋がっていると想定されます。このような影響は市の基本計画の見直しをせざるを得ないと考えますが、市ではどのような対応をされているのでしょうか。

A. 中城港湾新港地区の開発区域に隣接する陸側では、大型ショッピングモールや住宅地などの開発により、用途地域の指定や開発区域などについても再考する必要があります。また、小学校は想定した増加を上回り教室が不足するなど人口増による影響が発生しています。このため、今後市の基本計画の見直しを検討する必要があると認識しています。

●概要説明

②伝統文化の継承（観光資源としてのエイサー）について

エイサーとは、本土の盆踊りにあたる沖縄伝統芸能のひとつです。

うるま市は「伝統エイサーの郷」と言われ、200年以上の歴史があり、格式あるエイサーが残っています。

主な活動内容についての説明

1. 旧盆や市内外のイベント活動→市が関わらず団体の自主事業
2. 県外催事へのプロモーション活動（*市補助事業）事業費を検討の後8割補助
3. エイサー祭り
4. メディア発進（TV・新聞）
5. SNS（市ホームページ、YouTube等）
6. 民間旅行者による旅行ツアーなど

◆質疑応答

・田中議員

Q. どのような活動をして国内外に発信しているかお伺いたします。

A. 費用交通費、8割の補助
年3カ所で、約1000万円の
補助をだしている

・菅井議員

Q. 毎年行っているエイサー巡礼ツアーは同じ場所でしょうか？また、開催箇所が年によって増えることもあるのでしょうか？

A. 巡礼ツアーは、新宿は毎年行っていますが、それ以外の場所は、毎年というわけではありません。毎年場所について様々な自治体と話し合い決定しています。また、開催箇所の数は増えたりはなく、基本的にうるま市を含めた4箇所です。

・下村議員

Q. メディア発進（TV・新聞）について、県や市において何かの形で関係しているのでしょうか。

A. メディア発進（TV・新聞）については、県や市は関わりません。TV・新聞の自主的取材にお任せしています。

◆感想

・田中議員

市全体にて、企業誘致を真剣に取り組んでおり、それに対して、税制優遇処置を行っている。

又、新工業団地の造成も進んでいて、今の場所は、海岸沿いで、新しい場所は丘の上と更なる誘致を目論んでいる。

企業にとってもかなりの税制優遇となるため、出展しやすくなる。

又、伝統文化継承のエイサーについて、市で、毎年1000万円の出張補助をだしているため、活動する方も、市をあげて応援してもらっている感じがあり、素晴らしいと思いました。

・菅井議員

① IT・産業振興について

人口が20年で1万5千人も増えているということは、とてもすごいと思いましたし、地域のあらゆる世代の方に住みやすさを感じさせるような取り組みや、子育て世代など未来ある子どもたちのためにもイベントにも力を入れている様子が伺えました。細かい部分に手厚いサポートを施しているという事を感じ、ITについてのスキル育成も大切であることを学びました。ITについて専門家の質の重要さも感じ、人口を増やすために参考にしたいと考えました。

② 伝統文化の継承（観光資源としてのエイサー）について

エイサーについては、様々な地域の祭りで参加出来るかどうかを話し合い毎年場所の調整をしているとのことなので、土浦にも来てもらうことも調整方法によっては可能なのではと感じました。たくさん人の出入りがないとエイサーを開催していくことは難しいという話も出ていたため、より人の出入りが多いところとなると、例えば花火大会の前夜祭を開催し盛り上げていくなど新たな方法を考えなければいけないようにも感じました。時間はかかることかもしれませんが、是非コラボイベントとして地域活性化のために実現出来ると思います。

・ 下村議員

① I T ・ 産業振興について

中城港湾新港地区の開発と企業誘致については、沖縄振興特別措置法に基づき創設された経済特区に該当し企業にとって有利な条件がそろい、分譲開始とともに企業誘致が増え続け地域振興に寄与しています。また、うるま市独自事業である産業基盤整備事業計画による工業団地開発は、これも中城港湾新港地区に関連した企業からの要望を具現化し、企業誘致が容易にできると推察します。うるま市は企業が増加する事で経済の高度成長と最良な波及効果が表れていることが感じられます。

反面、急激な高度経済成長がもたらす人口増加による生活関連施設の建設、住宅地の開発など想定外の事象と、市の計画が追い付かず学校施設の不足をもたらすような事象も発生しているようです。経済の高度成長が必要不可欠ではありますが、市民の生活に影響のないよう計画・実行が必要と思われます。

しかしながら、土浦市と比較すればうるま市が羨まし限りです。土浦市でも工業団地の新規造成が進行しておりますが、これがいち早く完成し分譲され、企業誘致されることに期待しております。

② 伝統文化の継承（観光資源としてのエイサー）について

うるま市が「地域の宝」としてエイサーを舞う団体をしっかりと支援していることが窺えました。

うるま市は「地域の宝」を守るだけではなく、発展的に県外催事へ参加する団体への支援と積極的に市内各地にある団体が、エイサーを守るのはその地域の人々ですとの意識付けにも怠りなく普及啓発していたのが印象的でした。

土浦市には、各地で地域に根ざした祇園祭り流鏝馬祭り、からかさ万灯その他たくさんの催事がありますが、これらを「地域の宝」とした位置付と支援には限界があるようです。

うるま市がエイサーを観光資源として、その活動を支援する部署がありますが、土浦市も元気な土浦へと導く支援が必要ではないかと感じました。

うるま市 研修時の写真

↓うるま市 研修 職員説明



↓うるま市 研修





↑うるま市議会議場



↑うるま市 PRの横断幕



↑うるま市役所 玄関前集合写真

10月9日（木） 沖縄県浦添市 商工会議所

視察目的： 浦添市の商工業に係る歴史、概要等について

対応者： 浦添商工会議所 専務理事 渡名喜 守聖 様
部長 新垣 直美 様
浦添商工会議所女性会 副会長 佐久本 直美枝 様

● 概要説明

1. 浦添市の歴史について

(1) 浦添市の歴史・概要

- ・ 12世紀から14世紀までは、琉球王国の首都として栄えた。
- ・ 戦前は純農村地帯
- ・ 戦後は市の西海岸地域に米軍基地が建設され、建設労働者及び軍雇用員の増加に加え、県都那覇市のベットタウンとして一挙に人口が増加。その後外資系の企業、県内・本土企業の進出が進み、商業市域として発展。
- ・ 市内を縦貫する幹線道路（58号線、330号線、西海岸道路）は通勤、通学、産業輸送や観光客などが利用する重要な役割を担っている。一方、観光資源が乏しいため、素通りされる地域となっている。

(2) 浦添市の産業構造

経済センサスの調査では、事業所数5238事業所。内、第1次産業の農林漁業は1%にも足らない。第2次産業が10.5%、第3次産業が89.4%と圧倒的に第3次産業の占める割合が高い街となっている。その業種別内訳は、卸売・小売業が全体の24.8%と一番多く、次いで飲食サービス業、不動産業と続いている。

2. 商工業の遍歴について

浦添市について、

- ・ 浦添市は県都「那覇市」の北側に隣接
- ・ 人口11.5万人
- ・ 浦添市の企業5,261企業（那覇市に次いで県内2番目）
- ・ 全国住みよい街ランキング2位（日経BP総合研究所2024調査）
- ・ 海側270haを米軍基地が占める（東京ドームおよそ60個分）

(1) 浦添市の現状・課題について

① 浦添市の観光の課題

- ・ 観光客の市内消費額0円が最多
「宿泊・交通・土産・娯楽・他0円」～市内に訪れてもほとんど消費がない状況
- ・ 年1000万人の県内入域客の恩恵にあずかっていない
- ・ 琉球王都発祥の地という歴史を発信と活用の不足
- ・ 浦添市観光振興計画の遅れ（沖縄県内の市の中で最も遅い）
- ・ 東京ヤクルトスワローズのキャンプ地としての経済効果が薄い
- ・ そもそも立地が知られていない正しく読んでもらえない浦添市

② 発展著しい大型都市開発

a 2018年西海岸道路開通

道路の開通により、ますます通り過ぎる街に？

b 2019年モノレール市内3駅延伸開通

駅周辺の開発構想が実現化している。

③ 浦添市の観光に関連する計画

- ・ 2018年3月 浦添市観光振興計画策定
- ・ 2019年6月 県内最大級面積の大型商業施設開業
- ・ 2020年11月 市内コミュニティバス試験運行
- ・ 2022年度 市内初の大型4つ星ホテルの開業

誘客のきっかけが生まれる中、いかに滞在時間の延長を図り
その効果を広く市内に波及させるかが課題

(2) 今後の開発計画等について

- ・ 米軍基地返還後の開発計画

3. 「結の街」の由来・位置づけについて

結の街 コンセプト

「人づくり・まちづくり・情報の発信交流」

コンセプトを基にして

浦添市の地域経済の活性化、雇用機会の創出を生み出すための各種支援や政策の展開をしている。

他には、浦添まちゼミの紹介がありました。

以上の内容を資料・スライドにて説明がありました。

◆ 質疑応答

・ 島岡議員

Q. 結の街を取り入れようとしたきっかけは。

A. 人と人との相互扶助、土地と土地の結節、情報と情報の受発信を届けるために結の街を取り入れようとしてました。

・ 田中議員

Q. 結の街の由来について伺います。

A. 結→結ぶ、結ばれると、繋がっていくゆえである。

Q. 結の街に係る情報発信について伺います。

A. 市から、毎年5,000万円の補助をもらい、結の街を築きあげている。

Q. その他浦添市の魅力と政策について伺います。

A. 商工会→商工会議所に格上げし、小規模事業者への融資も優位になった。

・菅井議員

Q. 今後の開発計画について、予定されていることがあれば教えてください。

A. ウォーターフロントエリアを中心に大規模な開発を予定しております。すでにPARCOCITYが開業するなど、新たな複合交流施設の整備が進んでいます。国際性豊かな活力と魅力に溢れた都市へ成長していくため取り組んでいます。

・下村議員

Q. 企業支援では、企業の資金繰りについて自治金融制度の活用を紹介しているのでしょうか。

A. ※質問の内容が、不明瞭で正確に伝わらず、回答にこまった様でした。制度がないような回答となってしまいました。

◆感想

・田中議員

浦添市は、結の街と吟うほどに、皆さんが暖かい感情を持って接しています。

市では、毎年5,000万円の補助金をこの結の街の建物運営に出して

商工会議所様に運営をまかせ、それを活用しています。

その商工会議所様も商工会から会議所へと格上げし、

小規模事業者への融資も優位になるように努力してくれています。

これからもこの街を愛する人達が、この街の方々の生活を考えていることが、魅力ある政策となると思いました。

・菅井議員

人がよりたくさん集まり、特に若い層に人気が出るようなことにも力を入れており、観光振興への貢献が大きく期待されているよう感じました。今後の話を聞いているだけで、どのように変わっていくのだろうという期待や楽しみを感じると共に、整備前の今の様子から整備途中、整備後の実際の変化を細かく見届ける等、変化を追っていったらわかりやすいことも多々あるよう感じます。時間の都合上、ゆっくり見ることは難しい今回でしたが、次回はゆとりをもって見学をしたいと感じました。今後の変化が楽しみです。

・下村議員

浦添市の歴史は、琉球王朝時代の220年間は、琉球王国の首都として栄え、王都が遷り替わった後は戦前まで純農村地域であった。戦後は米軍基地が建設され基地に従事する人々の増加に加え、県都那覇市のベッドタウンとして一挙に人口が増加。その後、商業地域として発展との説明でした。

現在もベッドタウン、商業都市に変わりがないようです。観光客が宿泊せずに通り過ぎてしまう街で、観光による恩恵がない街であるとの説明がありました。

産業構造では、1次産業が1%にも足らず、3次産業が全体の84.9%を占めていてベッドタウン、商業都市の典型であることが分かります。

土浦市では、江戸時代からバランスの良い産業構造を戦前まで維持していました

が、戦後は経済の高度成長時代に突入後、首都圏へ働きを求めることで、産業構造が変化し、地域の1次産業と3次産業が衰退しベッドタウン化したように感じられます。土浦市も浦添市と同様に観光資源を巧みにPRするような仕掛けが不足し、観光の恩恵を享受できず観光客が消費しない地域となっています。経済規模では浦添市が恵まれています。浦添市は米軍基地の返還後の開発計画が実施されることで更に人口の増加が見込まれ、産業構造の変化による経済効果が期待されると推察されます。浦添商工会議所が市産業の中心的な役割を担うために、将来を見据えた政策提言を行っていることに敬意を表したいと存じます。

また、「結の街」プロジェクトでは、市内企業への支援策を具体的に実施し、市経済の成長の原動力となることを目標としているように感じました。

市内企業5261社の全てが商工会議所の会員ではなくても、これらの企業の「人づくり。まちづくり。情報の発信・交流」の基礎的なプラットフォームとなる取り組みと努力をされていること感心いたしました。

イノベーションの時代に遅れてはなりません。土浦市も商工会議所・県内外の大学・企業と連携したイノベーションの時代を乗り越えるためのプラットフォームをつくることが重要であることを提言してまいりたいと思います。



↑浦添商工会議所 研修

嘉手納市

【感想】

職員のみなさんの危機感ともとれるゴミの減量化の思いを感じることができました。庁内での古紙の回収公共施設の粗大ゴミのリユースという我が市でも学ぶべきことがたくさんあると思いました。

土浦市もゴミの減量化は切実な問題であるので知恵を絞っていきたいと思います。

うるま市

【感想】

色々な手法を使って企業誘致に取り組んでいる事は素晴らしいと思いました。税金の優遇など土浦市も見習う点が非常に多いと思います。

また、人口増加にも興味を持ってました。その一つとしてエイサーを地域の宝として若者の心を掴み、住み続けたいと思う気持ちが湧いてくるのだと思います。

浦添市

【感想】

とかく人と人との縁が薄れていく今日この頃ですが、逆に結の街ということで人と人、土地と土地、情報を共有することで町に元気を出したり、商工業を元気づけたりという時代を戻し、しかし時代の先取りを考えた試みは素晴らしい発想だと思います。

土浦市でも色々な角度から結の街を考えてみてはいかががかなと思いました。

嘉手納町における廃棄物減量化の取組

鈴木一彦

まず、土浦市においては、ゴミ焼却場の老朽化による、維持費、修繕費の増加、そして焼却灰の処分費用、最終処分場の問題と課題を多くかかえておられる。

嘉手納町も同様にゴミ排出量も増加傾向にあり、特に可燃ゴミの中の紙・布類が^{54%}を占める現状にある。新類の半ばも役場庁舎から出るゴミの量が多数あるため。

先が、役場内にリサイクルボックスを設けました。そこで新たな取組として、古布・古着の回収を令和3年度より開始。

ジモティーという業者と協定してリサイクルリユースの観点から取組を始めた。

嘉手納町では、行政が戸別回収をする体制から、自治会と業者が直接契約を結ぶ形に令和5年1月から移行した。

その結果粗大ゴミ、食器陶器類はリサイクルが可能に変わった。

行政と自治会の連携によるゴミ回収・リサイクルそして業者を交えての取組により令和元年度を基準として令和6年9月16日の税量に成功している。

本市への導入する場合は自治体の規模が土浦市の方と小さいため、出来た部分があるが、本市導入に際しおいては、ゴミの量や異質なため、保管場所や、リサイクル業者を圧迫する可能性があるのではないかと慎重に検討すべきであると感じた。

うるま市

項目 / IT・産業振興について

本市では現在 機・土浦工に付近の区画整理
事業をえ 各地区計画において、企業立
地を誘導している。

うるま市においては、中城湾港新港地区
に企業を誘致して、大成功している。

IT企業を中心に電気、化学、その他
企業が多数立地し沖縄の経済に貢献
している。

これだけの大規模の売り上げは、開発前
は、出張、農用地域も含まれていたが、その
規制がクリアし、一大産業地域を築いた
点は、素晴らしいとしか表現できない。

市長をはじめ、市議、県議が一丸となり

各種課題を解決した成果である

本市も参考としたい

項目五

伝統文化の継承に力をつけて

うるま市は、エイサー発祥の地であり

沖縄の中でも、特にエイサーに対する市民感情は特別なものがあると感じた。



エイサー団体を再興するため、小学校の運動会に取り入れたりと文化、伝統の継承に力をつけて、街づくりで努力している。

コロナ明けの再始動においても、苦労はあったようだが、思った以上に人員は確保できている。

本市においても、田舎はよし、亀城がいこなど伝統を継承している物は多いが、

沖縄うるま市における熱意は参考にするべきである。

浦添市

浦添市の商工会議所は、商工会から
商工会議所に移行した。全国でも
めざらしいケースである。本市では

土浦商工会議所と土浦市 新設商工会の
移行組織が並び立ち、合併後の課題に
どうしているか。今後浦添市の例もあるので

組織統一に向けての参考になると感じ
いた。

高工会から会議所に移行した経緯が
あるからか、会議所としては、各会員

との苦心の移り方ははかれており

会員に押しつける組織の指導すべき

全体を通して

三日目に沖繩県議会に訪問し自民党
沖繩県連の県議たちと話し合い

沖繩の観光地としての素晴らしさの他に
企業誘致についても、意見交換をした
やはり、国、県、市が一体となり開発

が進んでいる点は見逃さうべきである